

第66回えいが部「きっと、うまくいく」(2009年)

2009年の公開当時、インド映画歴代興行収入1位を記録した大ヒット映画。インドの工科大学の寮を舞台にした青春劇であり、コメディ映画だが教育問題をテーマにしており、若者の自殺率の高さなども取り上げている。2010年インドアカデミー賞(英語版)では作品賞をはじめ史上最多16部門を受賞した。

邦題の『きっと、うまくいく』は本作のキーワードである“Aal Izz Well”(アール・イズ・ウェル、“all is well”の視覚方言)を訳したものである。このフレーズの由来はイギリス統治時代のインドで夜警が街を見回りながら口にしていた言葉であるという。

スティーヴン・スピルバーグは「3回も観るほど大好きだ」と絶賛しており、本作のスポンサーであるリライアンス・ADA・グループはスピルバーグの経営する映画制作会社ドリームワークスにも1000億円以上の出資をしている。ブラッド・ピットも「心震えた」とコメントしており、インド以外でも高い評価を受け、各国でリメイクが決定している。日本では2013年5月18日に公開が開始され、「Yahoo!映画作品レビュー」5月19日付で1位、ぴあの調査による公開初週映画の満足度ランキングも1位となった。第37回日本アカデミー賞では優秀外国作品賞を受賞。

主演のアーミル・カーンは若々しい大学生役を演じたが、実年齢は当時44歳である。当初はもっと若い俳優を起用する予定だったが、カーンは「是非やりたい。やらせてくれるなら若く見えるように体を絞る」と言い、撮影期間中は肌をフレッシュにするため水を1日4リットル飲んで臨んだという。また、R・マドハヴァンも当時39歳、シャルマン・ジョシも30歳だった。

監督：ラージクマール・ヒラーニ

- ・アルターフ 復讐の名のもとに(2000年) - 編集
- ・フェラーリの運ぶ夢(英語版)(2012年) - 編集
- ・PK(2014年) - 監督、製作、脚本、編集
- ・SANJU サンジュ(2018年) - 監督、製作、脚本、編集

出演：アーミル・カーン

主演作品でインド映画の全世界歴代興行収入1位を5回記録している。

- ・2008年 - 『ガジニ』 / 23億2000万ルピー(約41億円)
- ・2009年 - 『きっと、うまくいく』 / 45億9960万ルピー(約82億円)
- ・2013年 - 『チェイス!』 / 58億9200万ルピー(約104億円)
- ・2014年 - 『PK』 / 85億4000万ルピー(約151億円)
- ・2016年 - 『ダンガル きっと、つよくなる』 / 212億2300万ルピー(約376億円)

シャルマン・ジョーシー

- ・フェラーリの運ぶ夢(英語版)(2012年)
 - ・ミッション・マンガル 崖っぷちチームの火星打上げ計画(2019年)
- カリーナ・カプール

